



学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和5年9月22日
横浜市立三ツ境小学校
学校長 飯田 雅人



三ツ境小だより 10月号



「実りの秋、そして学びを深める秋」

副校長 矢島 祥子



(中学校ブロック3校での合同職員研修会)

今年は30度を超える真夏日が80日以上も続き、とても暑い夏となりました。ようやく朝夕は過ごしやすくなり、秋の訪れを感じる季節となりました。

学校では、5年生が育てている稲が黄金色に色付き、緑遊会の方に育てていただいている里芋の葉が大きく育って、実りの秋を迎えているのを感じます。

今夏は雷の予報も多く耳にしました。古来より、「雷が鳴ると、椎茸がよくできる」と言われていますが、最近になって、それが科学的に事実と分かったそうです。雷が鳴ると、原木に埋め

込んだ椎茸の菌糸が衝撃で破壊され、すぐさま修復しようとする勢いで、椎茸がもとの1.5倍くらいの大きさになるそうです。また、トマト農家の方から「トマトは水やりをしすぎると、苗が軟弱に育ってしまい、実は大きくなるけれども味が薄くなってしまいます。用土の表面が乾いたタイミングでたっぷりと水やりをするのが美味しいトマトを作るコツです。」と、教わったことがあります。このように、自然界には「人間が手をかけすぎず、適度に刺激を与えたり、世話をしたりする方がよい」という例は多くあります。

さて、今年度も夏季休業中に様々な職員研修を行いました。そのうちの一つでは、「よい授業とはなにか？」というテーマで、三ツ境小学校の教職員が3つのグループに分かれてディスカッションしました。別の研修では、原中学校・原小学校・三ツ境小学校の中学校ブロックの教職員が本校の体育館に集まって、「主体的な学びについて考える」というテーマで、講師を招いた合同研修会を行いました。主体的な学びのためには、「めあて」と「対話」と「振り返り」が重視されます。この「振り返り」とは、学んだことを自分なりの言葉で表現することです。(このとき、次につながるポジティブな振り返りを行うことがポイントです。)振り返りを行うメリットとして、「自己の成長を自覚できる」「学んだ知識・感情を整理できる」「次の学びにつながる課題をもつことができる」などが挙げられます。

先日、4年生の児童がこんな振り返りをしていました。「水を守るために何かできることはあるでしょうか？一つは森林を守ることです。第二に水をむだに使わないことです。」「水のむだ使いをなくそうと思いました。浄水場やダムの見学に行って、もっと詳しく知りたくなりました。」など、学んだことを生活の中で生かしたり、実際の現場を見てみたいという思いをもったりしていました。

これからも、ただ知識を教えるのではなく、自分で考えたり仲間の考えから学びを深めたりできるよう、適切なタイミングでほどよい刺激を与え、主体的・対話的で深い学びになるよう、効果的な支援をしていきたいと思えます。

10月28日(土)に三ツ境小学校地域防災拠点運営委員会と連携して、三ツ境防災の日を行います。今年度は授業参観の時間を設けますので、保護者の皆様はぜひいらしてください。

保護者の皆様、地域の皆様、今後も本校の教育活動へのご理解ご協力よろしくお願いたします。